

# 令和7年度良好な水環境保全・活動モデル事業

## びわ湖源流の里山1300年の歴史と未来をつなぐ 水辺空間創出リバー・エコツアー 報告書

2026年2月  
一般社団法人栗東市観光協会



一般社団法人 栗東市観光協会  
- Ritto Tourism Association -

I. 地域の概要～地域の特徴と活動の背景～	2
特徴と概要	
これまでの活動	
II. モデル事業の実施内容	5
取り組み1 リバー・エコツアーの開催	
取り組み2 普及啓発誌の発行	
取り組み3 地域×企業・来訪者の体制づくり	
III. 成果と今後の課題・展望	18
成果と波及効果	
水環境保全・活用に資する仕組み	
今後の課題と展望	
IV. モデル事業実施結果・参考資料	24

# I. 地域の概要

## ～地域の特徴と活動の背景～

滋賀県栗東市走井集落  
ココロはしるはずむ らんらん走井



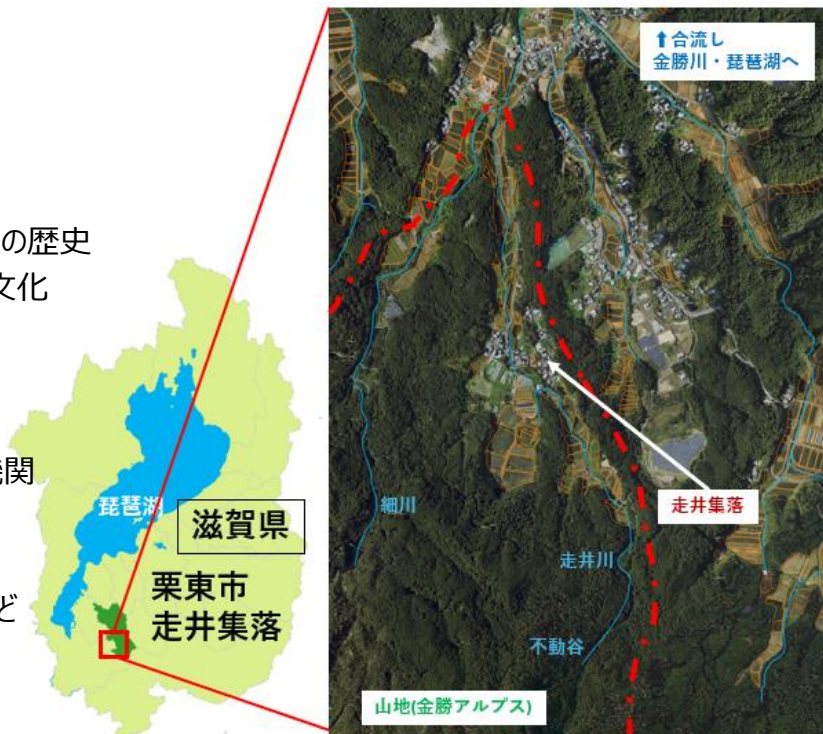
## ■ 特徴

滋賀県栗東市「走井(はしり)」集落は、栗東市の南部に位置する山間の集落で、天平5(733)年に平城京(奈良)の東北鬼門を守る国家安寧の祈願寺として東大寺初代別当良弁僧正が開基した金勝山金勝寺の造営に携わった人が形成した集落です。大字名「荒張」の語源は新墾(あらはり:新しく開拓された土地)「走井」の名は、最初の意のはしり(最初の開発地)に由来すると伝わっています。

「走井」は、勢いよく湧く井戸・湧水・岩間から迸る清水等の意味の古語(万葉集、枕草子など)に由来する土地が全国にありますが、当地の走井集落もまた不動谷から金勝川～草津川を経て琵琶湖へと流れる走井川の源流に位置します。今年(2024年)は集落形成1300年と伝わっています。

## ■ 関連する地域資源

- 琵琶湖の水源に位置する里山・里地
- 不動谷や走井川および水晶谷と細川などの水辺空間
- 水源とその恩恵を受けての棚田・水辺空間とともに歩んだ1300年の集落の歴史
- 五穀豊穰、雨乞い、無病息災などを祈る集落の水と関わる伝統行事や文化
- 良好な水辺環境の創出・保全に向けての集落の機運
- 「琵琶湖の水源」でありながら大津・京都に近い立地
- 名神高速道路等の交通アクセス
- 立命館大学、琵琶湖博物館、栗東歴史民俗博物館などの教育研究機関
- 民間民俗調査グループなどのネットワーク
- 農業体験などにリピーター参加する都市住民や企業関係者などの蓄積
- 金勝寺、狛坂磨崖仏、金勝アルプス(竜王山、鶏冠山)、白糸の滝など



## ■ 地域課題

少子高齢化に伴う過疎化（集落の世帯数が14軒、人口は32名）  
（高齢化率43.8% 令和5年度版栗東市統計書より）  
担い手不足による空き家や遊休農地、荒廃竹林の増加  
環境視点からの評価不足（評価が可視化されていない）

## ■ これまでの取り組み状況

平成24年10月	収穫祭イベント（ハーベストイン走井）初開催
平成28年3月	「明日の走井を考える会」結成
令和2年度～4年度	滋賀県「やまの健康」推進モデル地域
令和3年度	農林水産省「つなぐ棚田遺産」認定
令和3年度	「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞（近畿ブロック）受賞
令和5年度	滋賀県「しが森林サービス産業創出」推進地域
令和5年度～6年度	観光庁「第2のふるさとづくり」プロジェクト
令和5年度～6年度	農林水産省「農泊推進型農泊推進事業」
令和6年度	近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回）選定



## ■ 活動背景

走井集落では、自治会を側面支援する有志組織として「明日の走井を考える会」を結成し、立命館大学やパソナなどと連携し、農作業を体験する交流事業のプログラム化や収穫祭等のイベント、アジサイロード（花街道）の保全などに取り組んできました。

集落を支援してくれる大学ゼミグループの発案もあり、近年は水田周辺や水辺などでの生物調査やホタルの鑑賞会等の生物多様性をテーマとしたプログラムも試行しています。これらの取り組みを通じて、豊かな水辺環境や生物多様性があることで、来訪者の活動参加動機や満足度が高まることから地域のポテンシャルを再評価し、OECMなど近年注目されている人と自然との共生の認証制度等の活用へと繋げ、地域の良好な水辺環境の創出・保全と地域内外の交流・地域活性化に結びつけたいと考えています。



## Ⅱ. モデル事業の実施内容

びわ湖源流の里山 1300年  
歴史と未来をつなぐ  
水辺空間創出リバー・エコツアー



## ■ 目指す姿

里山に抱かれた走井の、良好な水辺環境を活用し、  
「環境×歴史×伝統文化×産業（農林業）」を複合的に捉えた  
琵琶湖水源エコツアーを磨き上げ、  
環境教育の拠点として持続可能な取り組み体制と水辺環境の保全と継承を目指します



- ◆ 「自然共生サイト」「しが生物多様性認証」等を活用し、企業・来訪者と地域の連携による継続性のある水辺環境保全体制の実現に向けて、その基盤となる機運醸成と連携体制の構築をシンポジウムや普及啓発誌の編集、エコツアーの磨き上げを通じて行います。

## ■ 概要

琵琶湖の源流・栗東市走井集落で、従来取り組んできた農業体験等を礎として、里山を流れる走井川および細川の水環境保全活動を「リバー・エコツアー」としてプログラム化・コンテンツ造成し、【水環境の保全・利活用】を確立します。

また、集落の歴史・文化・農業と水とのつながりを取材・調査し普及啓発誌としてまとめ、走井集落形成1300年となる本年度の機会を活かして情報を発信するとともに、地域×企業・来訪者の連携による【持続可能な水環境保全体制】の実現を目指します。

### 1) 水環境等の保全・調査活動

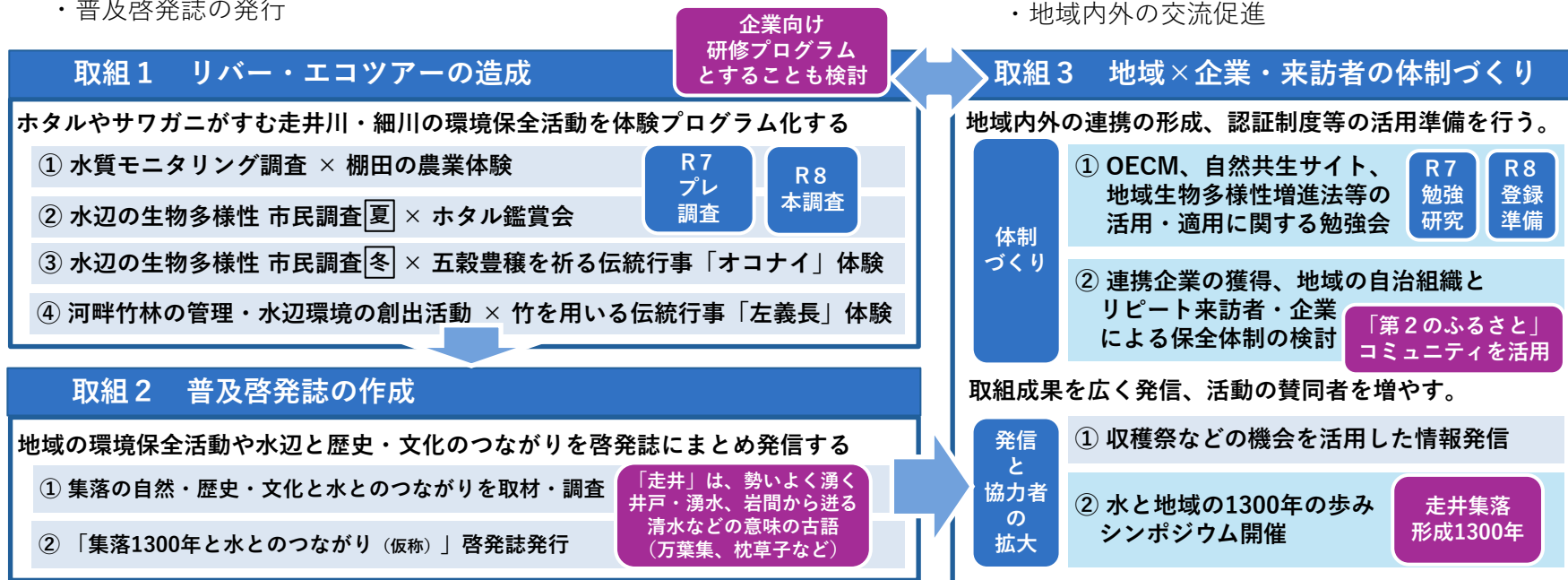
- ・水辺環境の創出と保全
- ・普及啓発誌の発行

### 2) 水環境等の活用方策の検討

- ・水辺環境を活かしたプログラムの開発

### 3) 保全・活用のための体制づくり

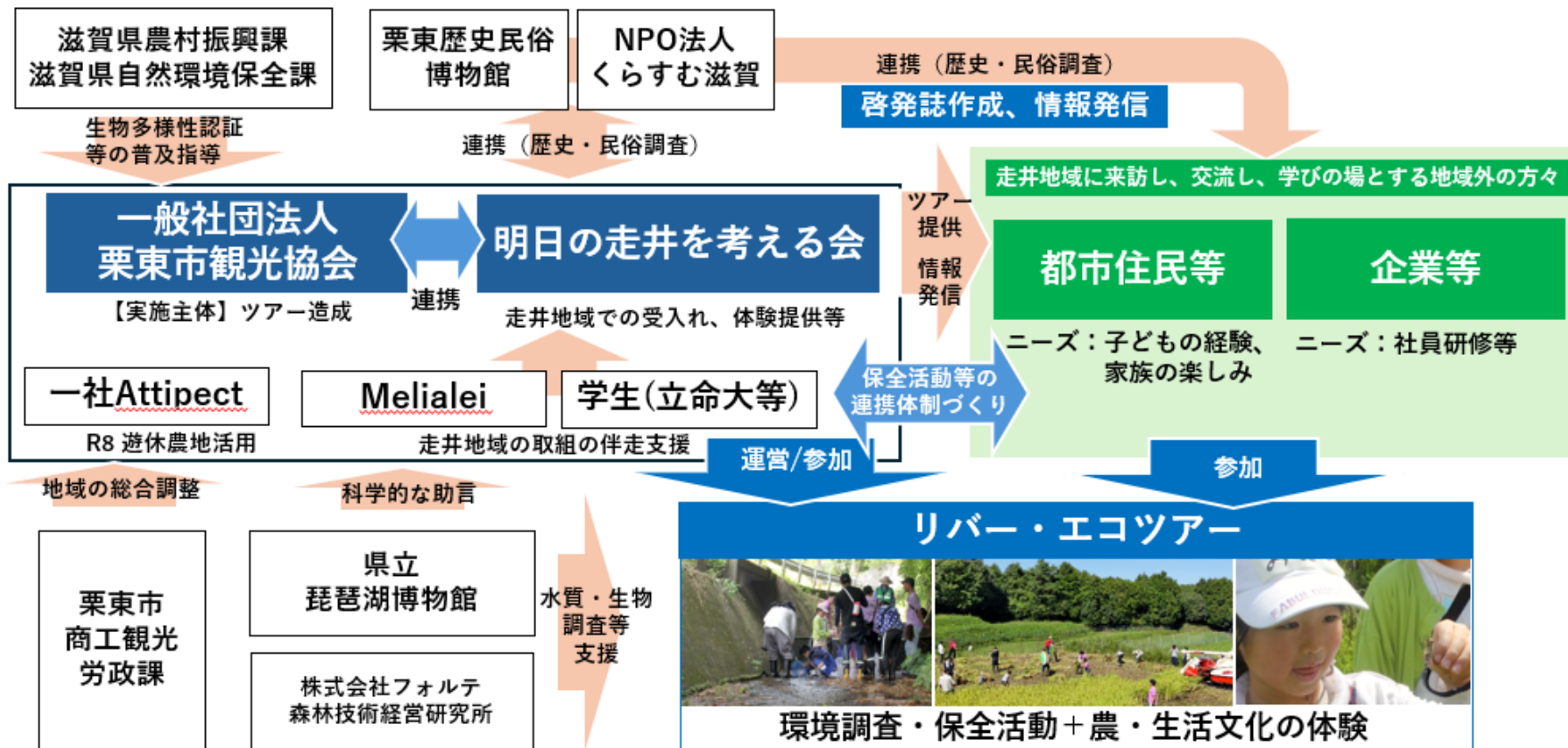
- ・体制構築
- ・地域内外の交流促進



# モデル事業の実施体制

## ■ 本モデル事業での連携体制

本事業は、次の連携体制のもと実施いたしました。



# モデル事業実施スケジュール

## ■ モデル事業実施スケジュールとして、次のように取り組みました。

取り組みごとに現況把握、調査方法・時期・規模、参画方法等について検証しつつ取り組みを進めます。

また、すべての取り組みを通じ課題を整理し、地域の価値基盤となる令和8年度での自然共生サイト認定に向けた道筋を付けます。

令和7年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組											
事業準備、各種手配	●5/1,事業着手	●6/24,現地視察受入						●11/21,現地視察(2回目)	●12/22,水辺シンポジウム	○2/20,成果報告会	※事業継続審査
月次報告		●6/9,水環境フォーラム	●7/30		●9/1	●9/24	●10/22	●12/5	●12/24		※最終報告
取組1 リバーエコツアーの造成											
①水質モニタリング調査 × 棚田の農作業		●6/8,田植え体験	企画	準備	●9/21,稲刈り体験(申し込み45名、当日17組参加)						
②水辺の生物多様性市民調査 × ホテル観賞会	準備	●6/2,水質調査(プレ)			●5/14,ホテル観賞会(雨天中止、最終申込者数33名)					●1/23,水辺の生きもの調査指導者研修会	
③水辺の生物多様性市民調査 × 伝統行事オコナイ体験							企画	準備		●1/18,オコナイ体験(参加者2名)	
④河畔竹林の管理 × 伝統行事左義身体験							企画	準備		●1/12,左義身体験(参加者38名)	
取組2 普及啓発ツールの作成											
①取材調査		●写真の収集		●8/21,撮影	●掲載資料使用許諾	●撮影取材		●撮影取材			
②啓発誌発行		●6/4,制作打合	●6/25,制作打合	●仮組	●7/22,地域協議	●9/8,撮影	●デザイン編集	●校正	●シンポジウムにて配布	●12/15,編集会議	●1/19,編集会議
				●A3概要版制作					○発行		
				●9/9,編集協議					○発行		
取組3 地域×企業、来訪者の受入体制											
①OECM等の勉強会				●制度理解	●9/27,西渡井とんぼフェス		●取組課題整理	●12/19,勉強会実施(企業、地域)			
			●7/16,3府庁ATシンポジウム	●9/2,しが環境ビジネスシンポジウム			●11/18,環境省地域共生圏フォーラム				
			●8/25,サントリーフォーラム				●11/17,龍谷大学自然共生サイト視察	●1/28,ERCA自然共生サイト活動計画策定研修			
②保全体制の検討		●課題整理		●8/26,滋賀県森フォーラム			●11/14,NTT西日本クイントブリッジ訪問	●1/26,地域で広げる自然共生サイト支援者意見交換会			
			●7/25,AT推進協議会意見交換				●11/5,滋賀県自然環境保全課(オンライン)	●1/18,滋賀県自然環境保全課伴走支援(現地調査)			
						●10/7,企業訪問(サンエス石膏)	●12/10,県自然環境保全課現地視察(地域)				
						●10/8,近畿地方環境事務所よびまき環境館訪問	●12/28,旅行会社(HIS)との現地意見交換				
				●7/28,近畿運輸局「よろず相談会」			●10/24,ローカルSDG's(きんぎょ環境館イベント)	●1/9,企業との意見交換			
③収穫祭の機会を活用した 情報発信						準備	●10/26,収穫祭(雨天中止)				
							●集落形成1300年記念式典				
④シンポジウム開催		●6/11,歴史協議				●A4チラシ制作	●配布開始	●12/1,琵琶湖博物館監修者現地視察			
		●6/17,くらすむ協議						●10/9,琵琶湖博物館、はしかけ意見交換			
		調整	●6/26,琵琶博協議	企画				●12/14,シンポジウム開催			
						●9/25,滋賀県農村振興課協議					

## ■ リバー・エコツアーの開催 ①、②

### ◆ 水質モニタリング調査×ホテル鑑賞会

令和7年6月14日（土） 雨天中止

申し込み者数 33名

#### ● 募集方法

- 地域からの情報発信（過去イベント参加者）
- 栗東市からのプレスリリース（市長定例会見にて）
- 観光協会公式Webページ（イベント情報）
- 各種SNSでの情報発信（Instagram、Facebook、X）

#### ● プログラム

- 18:00 水質調査
- 19:00 ホテル博士による説明
- 20:00 ホテル観察

### ◆ 水辺の生きもの調査×稲刈り体験

令和7年9月21日（日）

参加者数 50名

#### ● 募集方法

- 地域からの情報発信（過去イベント参加者）
- 栗東市広報誌お知らせ欄掲載
- 観光協会公式Webページ（イベント情報）
- 各種SNSでの情報発信（Instagram、Facebook、X）

#### ● プログラム

- 10:00 稲刈り体験
- 11:00 生きもの調査
- 12:00 終了

水辺の生きもの

約19種、発見



観賞会でのモニタリングに向けた事前調査



モニタリング調査への試行錯誤



棚田の稲刈り



田んぼ用水路での生きものさがし



COD簡易キットでの水質クイズ



捕まえた生きものたち

## ■ リバー・エコツアーの開催 ②

### ◆ 水辺の生きもの調査×稲刈り体験

- 参加者アンケート結果

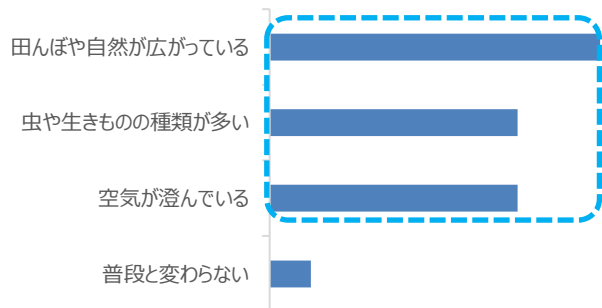
Q,どこから来られましたか (お住まい)



Q,イベントはどうでしたか



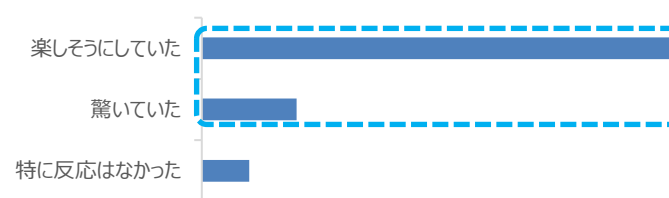
Q,普段の生活環境と比べて走井の自然環境とどんな違いを感じましたか



Q,これまでに走井をお訪れたことはありますか



Q,普段の生活環境との違いについてお子様の反応はいかがでしたか



Q,今後も稲刈りと合わせて開催してほしいですか



## ■ リバー・エコツアーの開催 ③、④

### ◆ 河辺竹林整備×左義長体験

令和8年1月12日（月・祝）

参加者数 38名

#### ● 募集方法

地域からの情報発信（過去イベント参加者）

栗東市広報誌お知らせ欄掲載

観光協会公式Webページ（イベント情報）

各種SNSでの情報発信（Instagram、Facebook、X）

#### ● プログラム

13:30 河辺竹林整備

15:30 左義長点火

17:00 お餅を焼いて無病息災祈念

### ◆ 冬の生きもの調査×オコナイ見学

令和8年1月18日（日）

参加者数 2名 ※オコナイの周知認識不足と考察・来年度は見直し予定

#### ● 募集方法

観光協会公式Webページ（イベント情報）

各種SNSでの情報発信（Instagram、Facebook、X）

#### ● プログラム

10:00 冬の生きもの調査

11:00 オコナイ見学

12:00 終了

冬の生きもの

約10種、発見



荒廃した河辺竹林の整備



伐採した竹林の搬出作業



地域伝統行事「左義長」



お餅を焼いて無病息災祈念



冬の生きもの調査



地域伝統行事「オコナイ」の実演

## ■ 実施成果

- R7は「プレ段階」として、①プログラム企画、②募集・運営、③記録・振り返りの一連の取り組みの型を整備することができ、季節性を含む運営知見を獲得しました。R8に「保全行動→評価」へと展開していくための基盤をつくることができました。

## ■ 普及啓発誌「水と集落 滋賀県栗東市走井」の発行

環境保全活動、走井集落や金勝地域における水辺環境と歴史・文化のつながりについて取材し、啓発誌「水と集落 滋賀県栗東市走井」にまとめました。走井川の水と生活・農業・文化の関係（左義長やオコナイなどの伝統行事と水、雨乞いの歴史、棚田による水保全、琵琶湖・淀川とのつながりなど）、水源となる森林の荒廃と緑化の歴史などを収録し、地域の図書館をはじめ、関係行政機関や地域の教育機関等に配布予定です。また、その概略版はシンポジウム参加者へ配布しました。

### ◆ 編集会議（編纂委員会）

構成；明日の走井を考える会、くらすむ滋賀、栗東歴史民俗博物館、栗東市観光協会、フォルテ、Melialei、スターブライド

- 第1回 令和7年7月22日（火）13:30～16:00  
珈琲屋ふきのとう（走井集落内）  
収録内容について方向性の検討
- 第2回 令和7年9月9日（火）14:00～16:00  
珈琲屋ふきのとう（走井集落内）  
構成（案）について協議
- 第3回 令和7年12月15日（月）13:30～16:00  
コミュニティセンター金勝 研修室  
写真レイアウト、文章内容について協議
- 第4回 令和8年1月19日（月）13:30～16:00  
コミュニティセンター金勝 研修室  
最終レイアウトについて確認

### ◆ 聞き取り調査（地域ヒアリング）

- 第1回 令和7年9月19日（金）13:30～16:00
- 第2回 令和7年12月1日（月）14:00～16:00

## ■ 実施成果

- 編纂活動を通じて、走井集落の住民は改めて足元の環境の豊かさを認識し、地域活動に自信を持ち、今後の集落活性化と環境保全を関連して考える機会となり、地域住民の今後の活動の指針である結束の要を作ることができました。



地域内の民家を改装したカフェでの編集会議（第1回、第2回とも）



自治会長をはじめ地域の方々も編集



第3回編集会議の様子



第4回編集会議の様子



地域での聞き取り調査の様子

- ◆ 普及啓発誌概要版  
A3二つ折り両面フルカラー  
500部制作  
シンポジウムにて配布



- ◆ 普及啓発誌完全版  
A4判フルカラー48ページ  
100部制作

- 構成内容

はじめに  
シンポジウム開催  
水とのかかわり、水源と水利用の環境、水辺の暮らしの記憶  
水と集落1300年の歩み

(古代～近世、近代から現代へ、次の1300年へ)

走井の四季(春、夏、秋、冬)と文化財

走井に寄せて

- 配布先(予定)

行政機関(国、県、市)

教育研究機関(図書館、大学、博物館)

地域関係者、等



## ■ 持続可能な地域づくりを考えるシンポジウム「水と山に寄り添う暮らし」を開催

地域の歩みとこれからの見つめ直すシンポジウムを開催。小さな山里でありながら、棚田や里山の手入れ、農業体験や交流イベントなどを継続し、家族連れや学生、企業・行政・研究者など多様な人々を受け入れてきた一方で、人口減少・高齢化、獣害、担い手不足といった課題は年々重くなり、「このままでは続かない」という実感も共有されています。本シンポジウムでは、走井が育んできた暮らしと景観を、歴史・地域社会・農村振興・環境政策といった異なる専門領域から捉え直し、走井で実践される地域活動と重ね合わせながら、持続可能な地域づくりの方向性について議論しました。

- ◆ 開催日時 令和7年12月14日（日）14:00～16:30
- ◆ 開催場所 栗東歴史民俗博物館 研修室
- ◆ 開催内容 第1部 話題提供、第2部 パネルディスカッション
- ◆ 参加者数 56名

地域住民、地域コミュニティセンター職員や小学校教員、行政職員、山林所有者等

- ◆ 登壇者 環境省水・大気環境局、滋賀県農村振興課、滋賀県立琵琶湖博物館、栗東歴史民俗博物館、NPO法人くらすむ滋賀、明日の走井を考える会

令和7年度環境省 良好な水環境保全・活用モデル事業  
持続可能な地域づくりを  
考えるシンポジウム

# 水と山に 寄り添う 暮らし



滋賀県  
栗東市  
走井集落

琵琶湖の源流、走井の歩みとこれから

琵琶湖の源流にある栗東市走井集落は、小さな山里ながら、年間を通じて農業体験や交流イベントを行い、家族連れや学生など多くの人たちを惹きつけてきました。集落形成からおよそ1300年という歴史には、琵琶湖源流の水や急傾斜の里山と共に暮らしがありました。今回のシンポジウムでは、走井集落の水と山に寄り添った暮らしを、多様な視点から見つめ直し、持続可能な地域づくりを考えていきます。



2025年 12月14日(日) 受付13:30～ 開始14:00～16:30  
会場：栗東歴史民俗博物館 研修室  
入場料無料・定員：80名(先着順) 予約はオンラインで優先となります

第一部 話題提供  
環境省の取り組みについて  
事務局：水・大気環境局 環境創造部長 栗川 敬人氏  
滋賀県での農村振興の取り組み紹介  
滋賀県農村振興課 農村創造課長 高橋 大進氏  
水と地域社会  
滋賀県水・大気環境局 環境創造課長 森川 辰人氏  
山と川と走井集落  
栗東市立琵琶湖博物館 館長 平川 昭之氏  
すみつく走井  
NPO法人くらすむ滋賀 理事長 竹口 和弘氏

第二部 パネルディスカッション  
モデレーター  
NPO法人くらすむ滋賀 理事長 竹口 和弘氏  
パネルリスト  
明日の走井を考える会 会長 高橋 大進氏  
環境省 水・大気環境局 環境創造課長 森川 辰人氏  
滋賀県立琵琶湖博物館 館長 平川 昭之氏  
栗東市立歴史民俗博物館 館長 平川 昭之氏

※プログラム内容は一部変更となる場合がございます



主催：一府三県法人栗東市観光協会、NPO法人くらすむ滋賀 | 共催：環境省 | 協賛：栗東市 | 協力：滋賀県農村振興課、滋賀県立琵琶湖博物館、栗東市立歴史民俗博物館 | 問い合わせ先：NPO法人くらすむ滋賀 | TEL: 080-2879-4183

SPC 997400  
080-2879-4183  
056-8606-5



シンポジウム開催の様子



市長挨拶



観光協会会長挨拶



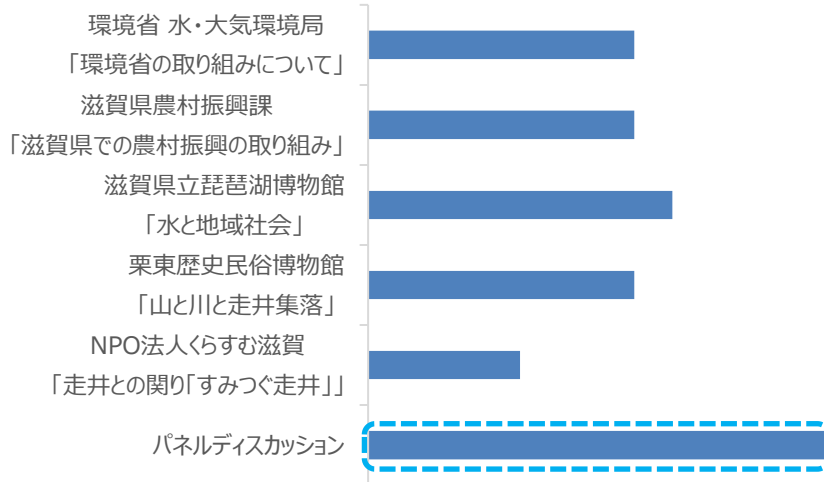
環境省水・大気環境局



パネルディスカッションの様子

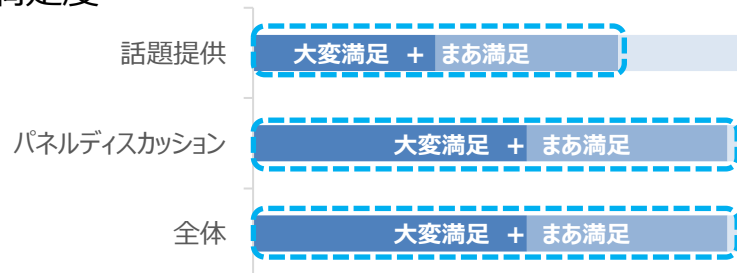
## ■ シンポジウムアンケート結果

### ◆ 関心を持ったテーマ



- パネルディスカッションが特に関心が高く、パネルディスカッションを長めに確保できたことも良かった。

### ◆ 満足度



### ◆ 次回参加意向

今後このようなシンポジウムがあれば  
参加したいですか

是非参加したい

機会があれば参加

- 「ぜひ参加」の比率で考えると、「地域住民」・「企業」・「行政関係者」の満足度が高く、「一般」はやや満足度が低かった。

### ◆ 地域理解

走井について理解が深まりましたか

満場一致で理解が深まったと回答

- 更に走井のことを詳しく知りたい旨の意見があり、より詳細で具体的なテーマを伺いたいとの回答が印象的です。また、民泊・観光・地域活性化等のキーワードが挙げられていました。

### ◆ 地域訪問意欲

走井を訪れたいと思いましたが

ほぼ満場一致で訪れたいと回答

- 参加者に有意義なシンポジウムであったことが伺え、地域にとっても位置づけを再認識することができ、走井の良さをアピールする機会および課題の解決に向けた参加者同士の繋がり構築の機会となった。

## ■ 自然共生サイト認定に向けて

地域での取り組みを継続的なものにするため、地域×企業・来訪者の体制「自然共生サイト認定の基盤」づくりに取り組みました。

## ◆ 勉強会開催

- ・ 日時：令和7年12月19日（金）
- ・ 場所：農福活動拠点「あるきだす」（栗東市荒張）
- ・ 参加者数 15名  
地域住民（明日の走井を考える会）、サンエス石膏株式会社、一般社団法人Attitect、一般社団法人栗東市観光協会
- ・ 講師 近畿地方環境事務所 自然環境調整専門官

## ◆ モデル事業現地視察受け入れ

- ・ 第1回 令和7年6月24日（火）  
周辺施設および走井集落内  
明日の走井を考える会、栗東市商工観光労政課
- ・ 第2回 令和7年11月21日（金）  
走井集落活動地および農福連携拠点「あるきだす」  
サンエス石膏株式会社、一般社団法人Attitect、NPO法人くらすむ滋賀、明日の走井を考える会、栗東市商工観光労政課、きんき環境館

## ◆ 企業訪問

- ・ サンエス石膏株式会社 令和7年10月7日（火）15:30～17:00

## ◆ 企業研修ワークショップ開催

- ・ 一般社団法人Attitect × サンエス石膏株式会社  
次年度活動に向けた意見交換を実施  
令和8年1月9日（金）13:30～15:30 農福連携拠点「あるきだす」  
参加者 14名



上3枚；OECM自然共生サイトの勉強会



上4枚；企業研修でのワークショップの様子

## Ⅲ. 成果と今後の課題・展望

らんらん走井  
次の1000年も走り続ける集落へ



## ◆ 成果（アウトプット）：以下の3点で手応え

### 1 リバー・エコツアーの開催



#### ▶▶環境×歴史×伝統文化×産業

- 4種のプログラム原型を形成し開催できた。
- 環境調査単体の収益事業化には課題感があるが、有償イベント成立にも手応え。
- ➔環境保全活動と交流人口の獲得・拡大・継続の両立に手応え
- ➔「イベント参加者が楽しめる活動」×「活動基盤の環境保全」が企画成功のポイント

### 2 情報発信基盤の形成



#### ▶▶価値の言語化・資産化

- 普及啓発誌「水と集落 滋賀県栗東市走井」の発行
- ➔本冊子は“PR”のみならず、次の取り組みに活用できる情報基盤に。  
1, 住民合意形成（周辺地域の巻き込み） 2, 教育プログラムへの活用  
3, 企業アプローチへの活用（活動参画促進）

### 3 発信と賛同者拡大



#### ▶▶体制づくりの起点形成

- 集落周辺の地域住民がシンポジウムに多数参加。 ➔本モデル事業の好影響が顕在化。
- 琵琶湖博物館等の地域の専門機関・行政機関や、環境調査専門会社との関係深化。
- ➔調査や保全活動における外部機関の起用ポイントが明確化  
（博物館ネットワークや調査会社の専門知識）
- 自然共生サイトの活用を見据えた企業パートナー候補企業の特定と一定の合意形成。
- ➔企業参画の論点  
（役割分担・実施頻度・費用負担・成果の可視化、企業／地域双方のメリット）を整理

「イベント参加者が楽しめる活動の提供」と「その活動基盤となる環境保全」の統合が、本モデル事業の成果と波及効果のキー・ファクターである

## ◆ 期待される波及効果：地域や企業・来訪者の成果が相互に波及し、新たな価値の創出へ

### ■ 来訪者

#### 社会文化 水との暮らし1300年の物語

伝統行事

環境改善  
活動

交流人口  
活用

- 「リバーエコツアー」開催を通じ、参画する楽しみ、「伝統行事の保全」と、「地域の環境保全」を接続

→ <伝統行事を入口とした交流人口>を環境保全の力に  
**交流人口を地域の力へ。**

### ■ 地域資源の活用

#### 地域価値 農・観光・産品の背景価値強化

水源の物語

農体験・産  
品満足度↑

誇り・  
経済循環

- 「水源の里山」の環境ストーリーが、農体験等の満足度や地域産品（例：こんぜ清流米）の背景価値を補強

→ 地域内のメリット（誇り・経済循環）に繋がる手応え。  
**具体的な接続は、地域住民等との今後の協議**

### ■ 企業

#### 教育・交流 環境保全と教育・活動の定着

参加の楽しみ・  
学び体験

保全活動の  
担い手化

環境保全と  
企業価値の  
創出

- 企業メリット（参画者にとっての実利的価値）を結びつけ、参画への導線を形成。 → 学びと体験を、保全活動（調査・維持管理・簡易モニタリング）へと接続。

■ 企業研修フィールド（施設、水田）の活用、自然共生サイトを通じた企業価値の創出 → **企業価値創出の場の提供**

### ■ 地域資源の保全

#### 環境保全 環境状況の把握の継続と改善実装への移行

よく知る

教えられる

環境が  
良くなる

- R7事業→「どこで・何を・どう測り、改善に繋げるか」の目処

→ R8は、環境把握と改善活動を結びつけた体験を企画。

**よく知る**（専門家×市民の調査 フィールドを知り、考える）

→ **良くなる**（棚田/水路等の維持・・・環境改善活動）

地域や企業・来訪者の成果が相互に波及し新たな効果と価値を生む好循環構造が確立

## ■ 水環境保全・活用に資する仕組み

### ◆ 連携体制

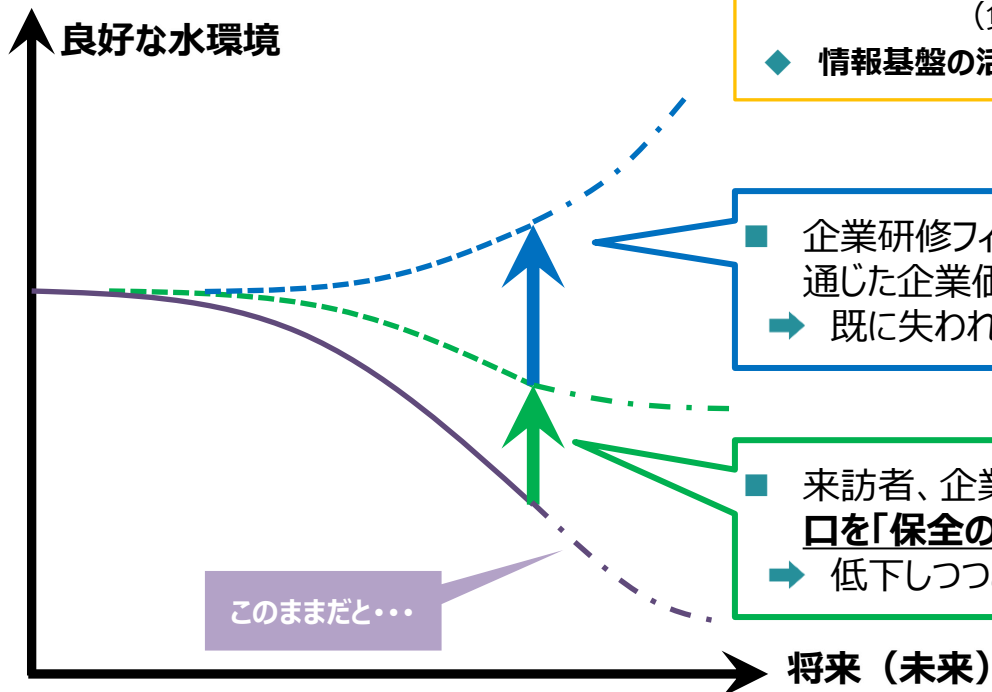
地域が企業や来訪者をはじめとした多様な主体と関わることで、環境保全に係るそれぞれの役割を明確にするとともに役割を分散し、過度な負担が一箇所に集中しない持続可能な保全体制を形成するとともに、認証制度を活用し資金・人・価値が循環する仕組みをつくり関わる主体すべてが自然による恩恵を享受できる環境を構築します。

### ◆ 仕組み（イメージ）

- ◆ **プログラム** 「環境×歴史×伝統文化×産業（農林業）」の融合モデル
- ◆ **連携体制** 地域と企業や来訪者の連携強化、基盤の確立（負担が一箇所に集中しない体制）
- ◆ **情報基盤の活用** 多角的なアプローチによる郷土愛の醸成

■ 企業研修フィールド（施設、水田）の活用、自然共生サイトを通じた企業価値の創出。**企業価値創出の場の提供**  
➔ 既に失われた水環境の **再生・新たな創出**

■ 来訪者、企業等の多様な交流や関係による**関係人口・交流人口を「保全の担い手」とする地域モデル**  
➔ 低下しつつある良好な水環境の **維持・再生**



# 今後の課題と展望（取組課題の設定）

◆ 本年度の取り組みで明らかになった課題：モデル事業成果を前進させるための課題設定①～④

本年の  
成果

1 リバー・エコツアーの開催  
▶▶環境×歴史×伝統文化×産業

2 情報発信基盤の形成  
▶▶価値の言語化・資産化

3 発信と賛同者拡大  
▶▶体制づくりの起点形成

今後の  
取組  
課題

1 専門家による調査の蓄積

栗東市、走井周辺の環境調査の実績は古いものが中心で、自然共生サイト認定に向けては改めて専門家による調査が必要。※R7滋賀県の支援を受け冬期のみ調査実施。現在、調査結果待ち

→ 専門家調査は他の季節へも展開し情報蓄積

情報  
基盤

保全

2 環境保全活動と親和性高いプログラムの充実改善

「楽しみ」の基盤を守る「環境保全活動」はニーズが顕在化しやすい。  
(例：地域特有の体験と周辺の環境調査や環境保全)

→ 「リバー・エコツアー」とすることで魅力が増すイベント・体験を優先的に充実。

教育

交流

3 走井の周辺地域の巻き込み強化

普及啓発誌等を活用し、走井内部の連携強化と、周辺地域との連携、自治体（市）や研究機関（博物館、大学等）との連携を深める必要。

→ 活動を支える体制

→ 活動フィールドの拡充

交流

4 自然共生サイトを活かした水辺環境改善 and 地域活性化

パートナー企業（候補）と地域で、サイト認定と其後の活動・メリット創出に具体的な道筋を付け推進する必要。（企業研修プログラムとの接続、費用負担、企業と地域のメリットの設計と顕在化への道筋づくり、目標像の共有）

→ R8は実施とさらなる磨き上げ（調査・企業研修×保全活動の持続性確立）

保全

交流

地域  
価値

環境×観光の文脈となるMICE誘致。「近江の滝」シンポジウムの栗東市開催はそのひとつの案として実施検討。

環境保全→教育→交流→地域価値の好循環モデルの基盤として  
自然共生サイトを【フィールドと活動コンテンツ】に位置づけ

環境保全→教育→交流→地域価値の好循環モデルの将来像・・・

**[1エリア(水辺・農地) = 1パートナー企業※]** をコンセプトに自然共生サイト化、  
交流人口と活動を集積 ➡ **環境保全と地域活性化を持続可能に!**

※企業に限定しない



環境保全×教育・交流=地域価値 交流人口の集積 ➡ 次の1000年も走り続ける!

# IV. モデル事業実施結果・参考資料

らんらん走井  
次の1000年も走り続ける集落へ



はじめに



栗東市長 栗村 隆司

滋賀県として、水と集落の関係を、改めて考える必要が...

走井 1300年の思い



栗東市長 宮城 亮右衛門

栗東市は、水と集落の関係を、改めて考える必要が...

目次

目次
はじめに 栗東市長 栗村 隆司 1
走井 1300年の思い 栗東市長 宮城 亮右衛門 3
栗東市と水と集落の関係を改めて考えるシンポジウム 5
栗東市長の挨拶 6
栗東市長の挨拶 7
栗東市長の挨拶 8
栗東市長の挨拶 9
栗東市長の挨拶 10
栗東市長の挨拶 11
栗東市長の挨拶 12
栗東市長の挨拶 13
栗東市長の挨拶 14
栗東市長の挨拶 15
栗東市長の挨拶 16
栗東市長の挨拶 17
栗東市長の挨拶 18
栗東市長の挨拶 19
栗東市長の挨拶 20
栗東市長の挨拶 21
栗東市長の挨拶 22
栗東市長の挨拶 23
栗東市長の挨拶 24
栗東市長の挨拶 25
栗東市長の挨拶 26
栗東市長の挨拶 27
栗東市長の挨拶 28
栗東市長の挨拶 29
栗東市長の挨拶 30
栗東市長の挨拶 31
栗東市長の挨拶 32
栗東市長の挨拶 33
栗東市長の挨拶 34
栗東市長の挨拶 35
栗東市長の挨拶 36
栗東市長の挨拶 37
栗東市長の挨拶 38
栗東市長の挨拶 39
栗東市長の挨拶 40

琵琶湖の源流、走井の歩みとこれからの考えるシンポジウムを開催



- シンポジウム参加者
栗東市長 栗村 隆司
栗東市長 宮城 亮右衛門
栗東市長 栗村 隆司
栗東市長 宮城 亮右衛門
栗東市長 栗村 隆司
栗東市長 宮城 亮右衛門
栗東市長 栗村 隆司
栗東市長 宮城 亮右衛門
栗東市長 栗村 隆司
栗東市長 宮城 亮右衛門



水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり
水とのかかわり

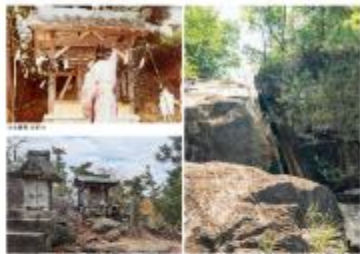


01 水と集落

## 水源と水利用の環境

滋賀県は、川越と多湖の2つの水源地から成る水源地の多い県である。滋賀県の水資源は、全国的に見ても豊富である。水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。

水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。水資源の豊富さは、水資源の豊富さを示している。



02 古代

## 古代：金園寺の創建と集落の始まり

古くからこの地に集落があった。金園寺の創建は、この地に集落があったことを示している。金園寺の創建は、この地に集落があったことを示している。金園寺の創建は、この地に集落があったことを示している。

金園寺の創建は、この地に集落があったことを示している。金園寺の創建は、この地に集落があったことを示している。金園寺の創建は、この地に集落があったことを示している。



03 中世

## 中世：修験の山と金園庄の時代

中世には、修験道の山と金園庄の時代があった。修験道の山は、この地に集落があったことを示している。金園庄の時代は、この地に集落があったことを示している。

修験道の山は、この地に集落があったことを示している。金園庄の時代は、この地に集落があったことを示している。修験道の山は、この地に集落があったことを示している。



04 近世

## 水辺の暮らしの記憶

水辺の暮らしの記憶は、この地に集落があったことを示している。水辺の暮らしの記憶は、この地に集落があったことを示している。水辺の暮らしの記憶は、この地に集落があったことを示している。

水辺の暮らしの記憶は、この地に集落があったことを示している。水辺の暮らしの記憶は、この地に集落があったことを示している。水辺の暮らしの記憶は、この地に集落があったことを示している。



水と集落1300年の歩み



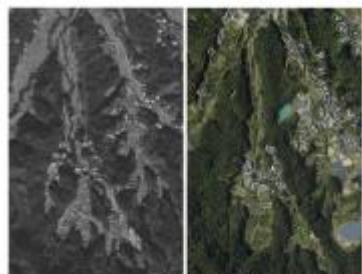
05 近世

## 近世：絵図から読み取る近世の走井

近世には、絵図から読み取る近世の走井があった。絵図は、この地に集落があったことを示している。走井の時代は、この地に集落があったことを示している。

絵図から読み取る近世の走井は、この地に集落があったことを示している。走井の時代は、この地に集落があったことを示している。絵図から読み取る近世の走井は、この地に集落があったことを示している。





栗東市走井の自然水環境。左：栗東市走井の自然水環境。右：栗東市走井の自然水環境。

## 近代から現代へ

近代から現代へ  
栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。明治時代には、農業が中心であり、水は生活の基盤となっていました。戦後には、産業革命の影響を受け、水質汚染や公害問題が生じました。しかし、近年は環境意識の高まりにより、水環境の改善が進んでいます。また、観光資源としての水環境も注目されており、地域活性化の一環として取り組まれています。

明治時代には、農業が中心であり、水は生活の基盤となっていました。戦後には、産業革命の影響を受け、水質汚染や公害問題が生じました。しかし、近年は環境意識の高まりにより、水環境の改善が進んでいます。また、観光資源としての水環境も注目されており、地域活性化の一環として取り組まれています。



栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。



栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。



栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。



栗東市走井の自然水環境。

## 次の1000年へ、たすきをつなぐ

次の1000年へ、たすきをつなぐ  
栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。明治時代には、農業が中心であり、水は生活の基盤となっていました。戦後には、産業革命の影響を受け、水質汚染や公害問題が生じました。しかし、近年は環境意識の高まりにより、水環境の改善が進んでいます。また、観光資源としての水環境も注目されており、地域活性化の一環として取り組まれています。



栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。



栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。



栗東市走井の歴史をたどると、近代から現代へと変遷する様子が見えてきます。

## Message from the editors of the magazine 環境省からのメッセージ

環境省では、国政の推進に資するため、「国土形成計画」を策定し、国土形成計画に基づき国土形成政策を推進し、国土の持続可能な発展を図ることを目指しています。また、国土形成計画に基づき、国土形成政策の推進を図ることを目指しています。また、国土形成計画に基づき、国土形成政策の推進を図ることを目指しています。

国土形成計画に基づき、国土形成政策の推進を図ることを目指しています。また、国土形成計画に基づき、国土形成政策の推進を図ることを目指しています。また、国土形成計画に基づき、国土形成政策の推進を図ることを目指しています。



## 走井の四季



## 夏

夏は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の夏は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の夏は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。

夏は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の夏は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の夏は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。



## Spring

# 春

春は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の春は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の春は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。

春は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の春は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の春は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。



## Autumn

# 秋

秋は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の秋は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の秋は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。

秋は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の秋は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。走井の秋は、自然の恵みを受け、家族や友人と過ごす大切な季節です。



### 冬

2024年12月、栗東市走井地区で行われた「走井の冬まつり」の様子を紹介します。この祭りは、地域の歴史と文化を伝える重要な行事です。雪景色の中、多くの人々が集まり、伝統的な遊びや展示を楽しみます。

12月1日、走井地区の中心街に「走井の冬まつり」が開催されました。この日は、雪景色の中、多くの人々が集まり、伝統的な遊びや展示を楽しみました。また、地域の歴史や文化を伝えるための展示も行われ、多くの人々が興味を持って見学しました。

12月2日、走井地区の中心街に「走井の冬まつり」が開催されました。この日は、雪景色の中、多くの人々が集まり、伝統的な遊びや展示を楽しみました。また、地域の歴史や文化を伝えるための展示も行われ、多くの人々が興味を持って見学しました。



### 走井に寄せて

栗東市長 竹村 健

走井地区は、豊かな自然環境と歴史ある文化を誇る地域です。この地域は、古くから農業や林業で栄え、その伝統を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の魅力を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

走井地区は、豊かな自然環境と歴史ある文化を誇る地域です。この地域は、古くから農業や林業で栄え、その伝統を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の魅力を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。



### 文化財

走井地区には、多くの文化財が数多く存在します。これらの文化財は、地域の歴史や文化を伝える重要な遺産です。走井地区の文化財を大切に守り、後世に伝えることが私たちの使命です。

### 水産資源

走井地区には、豊富な水産資源があります。この地域は、古くから漁業で栄え、その伝統を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の水産資源を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

走井地区には、豊富な水産資源があります。この地域は、古くから漁業で栄え、その伝統を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の水産資源を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

### 自然環境

走井地区には、豊かな自然環境があります。この地域は、古くから自然を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の自然環境を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

走井地区には、豊かな自然環境があります。この地域は、古くから自然を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の自然環境を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

### 走井に寄せて

栗東市長 里内 英幸

走井地区は、豊かな自然環境と歴史ある文化を誇る地域です。この地域は、古くから農業や林業で栄え、その伝統を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の魅力を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

走井地区は、豊かな自然環境と歴史ある文化を誇る地域です。この地域は、古くから農業や林業で栄え、その伝統を大切に守りながら、現代の生活と調和させて発展させてきました。走井地区の魅力を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。



### あとがき

走井地区の魅力を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。走井地区の魅力を最大限に引き出し、地域活性化を図ることが私の使命です。

